

県中域内地域連携担当教職員等研修会

6月26日(水) 13:30~16:00 郡山市労働福祉会館 3階 大ホール
出席者数 65名 小学校22名 中学校17名 義務教育学校1名 県立学校9名
特別支援学校4名 市町村行政担当者6名 地域コーディネーター6名

講話・グループワーク

「地域と連携することで学校・地域はどう変わるか」～学校も地域も Win-Win になろう!～

講師：茨城県水戸生涯学習センター 次長兼振興課長 鈴木 昭博 氏



《わたしと福島県》

・福島県は第二のふるさとです。平成23年度に国立那須甲子青少年自然の家に出向し、その年の3月に東日本大震災がありました。その後、避難所運営に追われながら、福島県の子どものためにたくさんの事業を実施しました。



「なすかしドリームプロジェクト」

《基本の「基」》

- ・福島県では、「福島県総合計画」や「頑張る学校応援プラン」において、地域連携についての計画や施策を明記し取り組んでいて、素晴らしいです。
- ・地域連携の重要性は増していますが、教職員の働き方改革と合わせて行うことが大事です。

《わたしの実践》

- ・校長として1年目から積極的に働き方改革と家庭・地域との連携・協働を推進しました。ランドデザインの変更、登下校パトロールの廃止、行事等の持ち方の見直し、ICT化の推進などです。地域ボランティアを活用した活動や教科・横断的なカリキュラムマネジメントを取り入れ、行事の効率化を図るなどして教員と保護者の負担軽減に繋げることができました。
- ・TTP（徹底的にパクる）Steal with pride（プライドを持って盗め）

《「熟議」と「対話」》

- ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）では合意形成が大事ですが、まずは対話による相互理解や関係の構築を行うことが重要です。熟議よりも対話です。経験を積み重ねることも必要です。
- ・合意形成するのに大切なことはいくつかあります。他の人の意見に傾聴し敬意を持って接すること、自分の意見に固執せず、Win-Winを目指すなどです。



《SOUND カードを使ったワーク①②》

- ・まずは、「最近の仕事以外の私の話し」についてサウンドカードを用いて対話をしました。初めて話す人との相互理解が図られ、互いに話しやすい雰囲気を作ることができていました。
- ・「10年後の福島のありたい姿」（〇〇で、△△な、□□という福島の未来を目指します）を作成することをゴールに合意形成を図りました。話しても聞き手も「10年後の福島」について真剣に考え、言語化するために活発に対話を重ねていました。



《参加者が作成した「10年後の福島のありたい姿」》

- ・（わくわくな）しなやかな心を持つ 人間となり 自然と共存し合う 未来を創造（想像）できる福島の未来を目指して取り組みます。
- ・地域の中で子どもからお年寄りまでかわりもちながら自分の可能性を築くことができる福島の未来を目指して取り組みます。

《参加者の声》

- ・2時間という時があっという間に過ぎるほど充実した時間でした。地域との連携の大切さがわかり、どう繋いでいくか考えたいです。